

令和5年度 伴走型小規模事業者支援推進事業 地域経済動向調査まとめ

(令和5年 2023年 12月値・要約版)

この調査は、経営者のみなさまが、経営状況の分析や事業計画策定に活用することを目的として作成しました。たつの市及び西播磨地域が、全国と比較してどのような特徴があるのかを分析しています。詳細はたつの市商工会HPで公開しています。

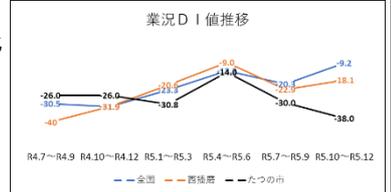
(データ出先：小規模景気動向調査、兵庫県中小企業景況調査、西播磨地域景況調査、たつの市商工会景況調査)

産業全体の景気動向の推移

<用語説明> DI値 = 「好転」企業割合から「悪化」企業割合を差し引いた値を示す
(調査事業所4、「好転」事業所1、「悪化」事業所3なら、25%-75%=-50%がDI値)

<概要>

最新の日銀短観(2023年12月)の調査結果では、中小企業の業況判断DIは「最近」については改善を示したものの、「先行き」に関しては総じて慎重な見方となり、特に非製造業における悪化幅が大きい。物価や人件費の高まりを背景とするコスト増や労働供給不足による従業員の確保難、加えて米国をはじめとする世界経済の動向など、先行きは不透明であり、今後の景況の推移には引き続き注意が必要である。

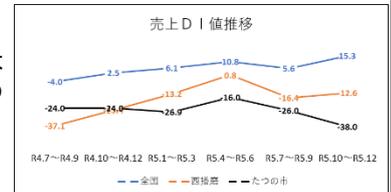


<地域別>

【全国】

2023年10~12月期の全産業における業況判断DIは、▲9.2(前期差11.1pt増)となり、前期から回復。製造業の業況判断DIは、▲7.8(前期差16.4pt増)となり、前期から回復した。

建設業の業況判断DIは、▲12.2(前期差13.6pt増)となり、前期から回復した。商業の業況判断DIは、▲13.7(前期差14.7pt増)となり、前期から回復した。サービス業の業況判断DIは▲3.1(前期差0.4pt減)となり、前期から悪化。前期に比べて全体的に回復しているが原材料の高騰は依然として続いている。

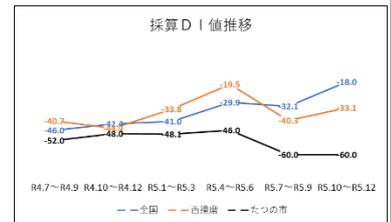


【兵庫県】

企業の業況判断は足もと改善し、先行きは慎重な見方となっている。個人消費は回復に向けた動きが広がっている。輸出は、増勢が鈍化している。設備投資は増加傾向にある。生産は一部に弱めの動きが見られるものの、全体としては横ばい傾向にある。有効求人倍率は前月を上回った。雇用者所得は全体として改善の動きが見られる。倒産件数は前年を上回った。

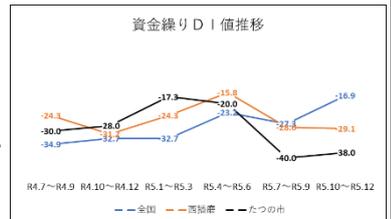
【西播磨】

西播磨全体の業況は、▲18.1(前期差4.8pt増)となり、前期から回復。売上高は、▲12.6(前期差3.8pt増)となり、前期から回復した。採算状況が、▲33.1(前期差7.2pt増)となり前期から回復した。資金繰りは、▲29.1(前期差0.5pt減)となり、前期から悪化した。来期は▲16.5(前期差7.2pt減)で悪化する見込みとなっている。



【たつの市】

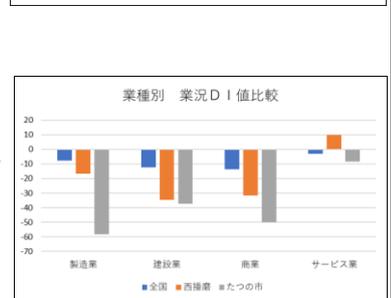
たつの市の業況は、▲38.0(前期差8pt減)となり、前期から悪化。売上高は、▲38.0(前期差12pt減)となり、前期から悪化。採算状況は、▲60.0(前期差0pt減)となり、前期と同じ。資金繰りは、▲38.0(前期差2pt増)となり、前期から回復した。来期は▲34.0(前期差32pt減)で悪化するとの見通しとなっている。



前期に引き続き、製造業・建設業においては原材料価格の上昇、小売業においては仕入単価の上昇。人件費の増加を指摘する割合も全ての業種で増加している。

<業種別業況>

全国的には12月期の産業全体の景況は、全DIが改善し直近1年間で最も高い数値を記録した。サービス業や、一部の業種で景気改善に一服感がみられるものの、コロナ5類移行初めての年末需要の増加が、製造業・小売業を中心に全体を大きく引き上げる結果となった。未だ原材料高騰やコスト高の影響は続くが、長期にわたり影響を及ぼした新型コロナウイルス感染症による景気低迷期は脱したと判断できる。



<総括コメント>

国内景気は、このところ一部に足踏みもみられるが緩やかに回復している。先行きについては雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、世界的な金融引締めに伴う影響や中国経済の先行き懸念など、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

たつの市においては、人流が多い地域柄であるので、季節型ウイルス感染症にも引き続き配慮しつつ、たつのふるさと応援商品券での地元買い回り率の向上や、各事業者においては経営計画により、政府の経済対策(小規模事業者持続化補助金・ものづくり補助金・事業再構築補助金等)も十分に活用しながら事業継続への取り組みを引き続き積極的に行う必要がある。

管内の雇用情勢

<用語説明> 有効求人倍率 = 求人数 ÷ 求職者数
(仕事が20件 求人応募者10人 なら 2.0倍)

令和5年12月期の有効求人倍率は、全国1.27倍、兵庫県1.01倍、龍野管内1.04倍となっている。飲食店や社会福祉・介護などで新規の求人が増えた。ただ傾向として新たな数値の動きは見取れず、たつの市は増加傾向であるが、兵庫労働局は足元の雇用情勢に大きな変化はないと情勢判断を据え置き。「持ち直しの動きにやや弱さがみられる」とし、「物価上昇等が雇用に与える影響に引き続き注意する必要がある」との見方も維持した。

